

イエスは 主なり

日本クリスチャン・アシュラム連盟



日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創始されたキリスト教の新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充満・献身・奉仕 112



「キリストのみことばにとどまる」

ヨハネによる福音書15：7

金 武士

私は大学生の時、キリスト者学生会の一泊研修会で、初めてキリスト教信仰に触れました。二日目の朝、学生たちが部屋の片隅で、あるいは戸外で、一人で聖書を読み、黙想しているのを見て、とても深い感銘を受けました。それがキリスト者への第一印象となったのです。その後、教会に通いましたが、この、み言葉を聴き黙想することが私自身の信仰生活にとり不可欠のものとなって行きました。牧会者として働き始めてからも、信徒が自立した信者として成長するためには、このみ言葉の静聴と黙想の時を守る必要があると痛感させられ、機会ある度ごとに、求道者や信徒にこの時を持つように勧めています。冒頭の聖句はみ言葉に聴き黙想してキリストに留まることの大切さを教えられています。「あなた方が私につながっており」、これは、キリストのみ言葉に聴くことの大切さを教えています。ローマ人への手紙10：17に「信仰は聞くことによるのであり、聞くことはキリストの言葉から来る」とあるように、日々神と一対一で、静聴と黙想の時をもつことが、信仰の養いに不可欠です。「私の言葉があなた方に留まっているならば」、これは、キリストのみ言葉に留まり、キリストへの信頼関係を深めることの大切さを教えています。信仰というものは瞬時にして得られるものです。十字架にかけられた一人の強盗の信仰告白は瞬時に主に受け入れられました。しかし信頼関係は長い時間をかけてこそ築き上げられるものではありませんか。時がよくても悪くても、キリストにのみ留まることによって、キリストをより深く「知る」ようになる。そしてキリストに、より深く「知られる」ようになるものです。親は幼い子を愛してやみません。しかし子供を愛しているからと言って、子供の力にふさわしくないお金や情報を与えることはしません。愛は信頼関係が築かれるまで、留まり、時間をかけ、忍耐して待つものです。

ある人が「祈りは世界を動かす神の御手を動かす」と言いました。これは真理です。しかし、もし私たちが今、守るべきものを守るまでは、世界を動かすその御手を動かすことはありえないでしょう。キリストのみ言葉に聴くというアシュラムは、信仰生活の原点であり、また実践であることを、この聖句から読み取れるのではないのでしょうか。このようなアシュラムが一層深められ、広められるように願ってやみません。

(在日大韓大阪西成教会牧師)



スタンレー
ジョーンズ
コーナー

神の漁り人、S・ジョーンズ(2)

インド・サトタル・アシュラムの
実況記録ビデオの解説より。

「どんな善良で賢い人でも靈的運動の中心にはなれない。そのような重荷を負うことのできるのは神のみである。そこでクリスチャン・アシュラムの中心になれる方はキリストしかない。」そのキリストが私たちのゲルとなり、キリストを中心にして、すべてが展開するのです。これは重要なことです。

これによって、種々の異ったタイプのクリスチャンを一つにすることができのす。「あなたがキリストに属し、私もキリストに属するならば、私たちは互いに属し合う者になる」と言えるのです。イエス・キリストはすべての人のために死なれたのです。私たちは色々な面に於て、教理、礼典、習慣に於て異なるものですが、キリストにあつて一つになれるのです。キリスト教信仰の中心は人なる

お方、キリストです。キリスト教はキリストです。クリスチャンはイエス・キリストとして人の命を持った神を信じる人々です。

だから私たちは思索を、神から始めません。神から始めるということ、神々に就ての自分の考えから始めることで、これは神ご身からとは異なる出発です。また人間から考え始めることもしません。そうすると、人間の問題から考え始めることになり、同じく人間の問題で思索を終わることになるでしょう。またその過程も問題となるでしょう。私たちは神からも人からも思索を始めず、神であり、人であるお方から考え始めます。上に向いて神を仰ぎ、下を見て人に至ります。私たちはこのお方の命に真の命を見るのです。

私たちの信仰の中心は神が人となつたイエス・キリストです。その中心の中心は「言が肉体となつた」ということです。哲学も倫理も「言が言になつた」に過ぎません。イエスに於ては「言が肉体となつた」のです。その時、その観念はサンダルをはいて事実となり、歩き出します。イエスの語られたすべての言葉が「言は肉体となつた」ことを具体的に表しています。この「言葉は肉体となつた」というみ言葉への私たちの信仰の表現は、私たちに於て、「言は肉体となつた」と言

うことではなければなりません。

「米国」が、不完全な人間のことで、不完全ですが、私たちの間に実現されているのを見なければなりません。その答えに自らがなりません。実現され、普遍化された答えになります。

そうなるためには、障壁を崩さねばなりません。米国とは、神が私たちの中に侵入することなのですが、それを妨げるのが障壁です。階級という障壁があります。米国は階級のな社会です。人種の差別をなくし、すべての階級、すべての人種の一致をもたらしましょう。主イエスはすべての人のために死なれたのです。それから肩書のある人となない人がいます。肩書は戸口に置き去りましょう。監督も、医者も、教授も、裁判官もなくなり、ただのメリー姉妹、ジム兄弟になります。これは心理学的に人間関係を平等にすることになります。名字でなく名前と呼ばれて、偉そうに構える人はいません。主イエスが「父は一人では皆兄弟姉妹である」と言われたので、私たちは兄弟姉妹なのです。「〇〇兄弟」と呼ばれて、シヨックを受ける人がいます。兄弟姉妹のように感じないなら、その呼び方はしないで下さい。

▼聖ヨハネによる福音書

D.P.タイタス著・海老沢・飯島共訳
価一、二〇〇円 一、二四〇円

▼御国を来らせ給え

D.P.タイタス著・植村俊雄訳
価三〇〇円 一、九〇円

▼インド途上のキリスト

一九八六年一月改定版
E.S.ジョーンズ著新訳者・淵江淳一
価一、九〇〇円 一、三六〇円

▼アシュラムの原則と実際

海老沢宣道 著 第三版
新書版五二頁三〇〇円 一、九〇〇円

▼日本アシュラム四十年記念出版

▼いかに祈るか

今世紀最大の世界的宣教師
スタンレー・ジョーンズ博士著
白川鄭二・飯島庸江共訳

祈りの人スタンレーが祈りとは何か、祈りの段階と方法と実例を親切に教えている好著。

◆教会その他の祈祷会で用ゆるのに最適の好テキスト

新書判七〇頁

定価六〇〇円 一、九〇〇円

発行所 日本クリスチャン・

アシュラム連盟

振替口座 〇〇一〇〇一四五五八

東京都目黒区中央町1-21-10

碑文谷教会会館付

日本クリスチャン・アシュラム連盟

★第35回関東アシラム報告★



第35回関東アシラム

九月二十一日〜二十四日、山崎製パン箱根山荘で開かれ三十六名出席。女性高齢者の松貝幸(九十五才)、坂井正栄(八十五才)、市川房江(八十三才)さんらは何れもお元氣な顔を見せられた。長老格の高齡男性、約九名の欠席者は寂しかったが、それを埋めるように、五名の教職と四名の五、六十才の神学生が初参加され、少し若がえった観があった。教職のお名前は、宇都宮東・阿部克男、三島・長倉喜代子、八王子栄光・三枝文子、伊東・当真潔、鶴沼・板倉敏夫師らで、神学

生は河合悦子姉、伊藤節兄、矢野伸男・清美のご夫妻、何れも初めてのご出席。また漫画家の谷牧一(本名山岸英一)兄が参加。明るい話題で会を賑わされた。

助言者は福岡女学院大の斉藤剛毅教授、永年、若い学生を指導されてきた話術をもって福音の奥儀に聴く者をひきつけ、四十三年間の貴い牧師としての恵まれた生活を証しされ多大の感銘を与えた。その講話は本紙に連載する。尚讚美の時には出演者が多く、素晴らしい盛り上りを見せた。実に恵み豊かな集いであった。

信仰生活43年の私の証し

第35回関東アシラム「福音の時より」

斎藤 剛毅

「ルカ10:38-42」丁度三年三月ほど前のことであります。私は福岡女学院大学の講義中に急性心筋梗塞で倒れました。学生が危険を女医さんに知らせてくれました。久留米大学病院の救急センターに救急車で運ばれて行く途中、私は牧師27年という経験がありますからもう少し高尚な祈りを捧げるのかと思ったのですが、現実の私は親馬鹿まる出しの祈りをしていました。「神さま、私の娘が結婚するまで命を承らえてください」という祈りだったのです。発作

が起きて6時間以内に手術が終わりませんと心臓の筋肉細胞が壊死し始めますので、大変危険な病気であります。発作が起きてから丁度5時間半で手術が終わりまして、九死に一生を得たのです。心臓の4が停止しておりましたから、普通なら私は死んでいておかしくはなかったのです。幸にも私は承らえたのです。翌年三月に娘が結婚しました。花嫁の父としてウエディングマーチに娘と腕を組みまして、結婚式に参加できました。時は本当に父親として嬉しかったです。父親としての務めを果たすことができたのは本当によかったです。その翌年また発作が起きました。もうその時は駄目だと思いましたが、「神さま、娘が結婚するまで命を守ってください。」と祈って、その祈りが聞かれた後ですから、今度は神さまに前のようなお願いはできないと思っただけですが、久留米大学病院に行きましたら、晩のことだったので、医長さんが、もう看護婦が帰ったし、レントゲン技師もいないけれども、特別にあなたのために手術をしますと、その晩に緊急手術が行なわれ、私はまた命を承らえたのです。

心筋梗塞で倒れてから三年三月たちました。今こうして皆さんの前にアシラムの助言者として話をさせて頂けるのは、夢のようなことです。それは私にとって感謝以外の何ものでもありません。今年の八月の末に札幌の北星学園大学で開かれまして、全国キリスト教会に参加して、その帰りに函館のバプテスト教会に立ちよりました。この春神学校を卒業して函館バプテスト教会の牧師となりました吉田真司の妻として娘が働いておりますので、この二月に生まれた孫娘の顔も見ると再会の嬉しい気持ちを感じました。その八月の三十一日に函館教会でお話させて頂きました。

私の息子は東京の新小岩バプテスト教会の牧師を二年前からしておりますが、その同じ時刻に息子は東京で、私の妻は福岡の二日市の教会で、私が今、協力牧師をしています。その教会で教会学校の校長として、教会学校の振起日の強調週間のために講壇で証しをして頑張っていました。私は北海道で、息子は東京で、妻は九州の福岡で講壇に立つ、これはもう一生に一度しかないような出来事でした。このようにして、神さまの前に、ヨシユアが語りましたように「私と私の家は主に任せます」という、ヨシユア記24:15の言葉が実現して、本当にこの世に生まれて来てよかったです。思った次第でございます。

今回、35回関東アシラムの助言者として立てられました時から今迄

理事 海老沢 宣道
編集人 白石 二郎
発行人 大石 嗣郎
定価 一部 60円 千 80円

おののきをもって折ってまいりました。大石先生に第一回の話として、その副題に心筋梗塞で倒れる前、第二回に倒れた後という題でお話しますというところをご連絡させて頂きました。けれども、大病を煩った後も、その以前も、神さまの恵みは変わらないのです。敢えて何が変わったかと言いますと、今、司会者に読んで頂きましたように、マルタのイエス様に仕える姿勢から、イエス様に日毎にじっと耳を傾ける、イエス様のみ言葉に耳を傾けるというマリヤのイエス様への信仰姿勢に除々に変わって来たことではないかと思えます。

実はこれこそ本当に大切なことと、思うんですが、私は今回皆様の前に「福音の時」を恵みを分かち合う時として、①入信して献身し、結婚に至るまで、そして②63年から兵庫県明石に開拓伝道を六年間苦勞してしましたことを想起してお話いたします。その間、一番苦勞して牧師であることの壁にぶつかり、悩んで牧師をやめようと再三思った、その6年間が私にとってなぜか一番恵みの時であり、思い出多い時であり、そして神様に訓練された時だと思えますので、苦惱と喜びも証しさせて頂きたいと思えます。

アメリカに五年学びまして帰国後、福岡の長住バプテスト教会で牧師を

しながら西南学院大学の神学部で教会史と教派史などを教えてまいりました。そして13年の後に、一年半再びアメリカに留学してジョージタウン大学で教えながら、また論文を書きながら同時にレキシントンで日本人伝道に従事して、帰って参りました。一九九〇年から福岡女学院大学で聖書概論、キリスト教教理入門、英米思想・宗教の科目などを教えて現在に至っています。そういう経緯の中に、信仰に入って43年経ちましたけれども、私の足跡を振り返って見ますと、恵みが印されているのです。それを分かち合いながら聖書の線に沿ってお話させて頂きたいと思えます。

私は、心筋梗塞で倒れるまでは、マルタのようにイエスさまのためにならどんなことでもするという、イエスさまのために仕え、働くということに心を注いできたと思えます。

私がどのようにして入信に至ったかを先ず、お話させて頂きたいのです。

私はいわゆる教育ママと言われる母に育てられました。かなりの教育特訓の後に東京の、教育大学付属中学に、地方の板橋の板橋小学校という名もない学校から付属に入ったというので、驚かれたものです。その時に鈴木一男先生という、後に教育大学で源氏物語などを教授なさって、NHKの放送でも有名になられた先

生が私の担任であったのです。その鈴木一男先生が私の作文を読んでくださって、「斎藤君、君は中々いい文章を書くね。これから更に文章をしっかりと磨いたら、いい文章を書けるようになるよ」と仰ってくださったのです。その一言の励みですが、私が文章を練ってものを書く将来の道筋を拓く大切な言葉になったのです。教育者というのはいわゆる education に与かる者であります。education という言葉は education というラテン語から来ています。すなわち「引き出す」という言葉です。この鈴木先生の言葉によって私が自覚していなかった書く能力が鈴木先生から引き出されたものであります。私はその後信仰に入っていくのですが、祈りの中で神さまによって私の才能が更に引き出されて行ったように思うのです。ですから最大の教育者は神さまであると思っておりますが、私は中学から高校に進みまして、私の男兄弟、兄たちがそれぞれ戦時中に旧帝国大学に合格して学んでいたものだから、私も国立大学を目指して頑張るように母から叱咤激励された訳であります。

たまたまその当時の教育大学の付属高校は日本で一番東大の合格率の高い受験校でありました。私の名簿などを繰って見ますと、大体一クラ

ス45から50人の中でそれぞれ10人位が東大に合格してきますから、私もその仲間の一人に成らんとして、特に英語が私は好きでしたから、私の両親や兄弟から英語を生かして東大の法学部に入って外交官に成って世界で活躍しようという夢を私は与えられたのです。

海老沢宣道の新書

神に就いての黙想

B6判、150頁、価1,300円 千240円

神との生きた対話・交わりを願いつつ綴られた信仰の随想。老熟した著者が現代の教会に問題提起しつつ語りかけるメッセージ。

発売所 キリスト新聞社
取次 日本クリスチャン・アシュラム連盟

アシュラム生活最良の友 アパ・ルーム

海老沢 宣道 編集

(年6回刊行の日々の糧)

国際的、超教派的、靈的な読物
価300円、千90円、年2,340円(千共)

申込先 千256 小田原市国府津3-11
振替口座 00110-7-193834 アパ・ルーム
電話番号 0465-48-2010

日本語版は創刊以来46年続行中